

倫理 研究課題 <源流01>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノートp ~

●哲学＝「知を愛する（フィロソフィー）」の訳語

＝自然・人間・社会について理性的に考えること（∴あらゆる学問の共通の源）

●古代ギリシアにおける哲学の発展

①神話（ミュトス）や英雄伝説による説明

↓ ホメロス、ヘシオドス、ソフォクレス（『オイディプス王』（悲劇））

②哲学的探究の始まり

人間の理性（ロゴス）に基づいて真理を見いだす学問的態度

個々の事物を超えて存在する普遍的客観的な原理を直観する（テオーリア＝観想）

実用から離れ（実生活に役立たなくても）、自由に真理を求め愛する態度

●自然哲学＝「自然（ピュシス）の根源（アルケー）は何か？」を考える

ミレトス学派：タレス「水」、アナクシマンドロス「無限」、アナクシメネス「空気」

ヘラクレイトス「万物の根源は火」←「万物は流転する」（∴同じ川に2度は入れない）

ピュタゴラス（数学者）「万物の根源は数」、輪廻を信奉し教団を組織。

エンパドクレス「万物の根源は土・水・火・空気」

デモクリトス「万物の根源は原子」、エリア派のパルメニデス「万物の根源は“存在”」

●ソフィスト（知者）たち

探究の対象：人為（ノモス）へ。政治的知識や弁論術（説得の技術）の重視→職業教師

プロタゴラス：「人間は万物の尺度」＝普遍的な真理は存在しない

＝個々の人間の判断が真理（相対主義）

ゴルギアス：「何も存在しない、存在しても知り得ない、知り得ても伝え得ない」（懐疑論）

┌ 意義：ルールのある方を人間の立場からとらえ直し、自由な批判・議論を可能にした

└ 限界：共通の価値の否定→詭弁（道理に合わない言いくるめの主張。ごまかしの説明）

→勝利至上主義（弁論に勝つことが自己目的化。勝つためには手段を選ばず）

（（例）プロタゴラスと弟子の謝礼をめぐる論争 →世の中に混乱

★現代社会においてソフィストのような人という、どんな人たちだろうか？
